

編集後記

村上健一顧問から、創立30周年の節目を迎えるRISTに、新たな発展と進展を期待するとの巻頭言を頂き、情報科学技術の将来展望と当財団の目指すべき方向を示していただきました。当財団は、情報化時代を担う組織として、また、原子力情報のシンクタンクとしての展開と使命をはたします。

また、自然科学研究機構の中島徳嘉氏から核融合原型炉の早期実現を目指す国際核融合エネルギー研究についての事業と紹介する論文をいただきました。電気通信大学の西野哲朗教授から、コンピュータをより知的で高速にするために、脳科学や物理学などの原理も取り入れた、新たな情報処理の仕組みを探求する計算機科学研究に関する論文をいただきました。国立がん研究センター東病院臨床開発センター西尾禎治氏から、高度情報科学技術の進展がもたらした高精度陽子線治療の実現と、これからの課題に関する医療分野での論文をいただきました。一方、当財団の職員でコード開発部の仁井田浩二氏からは、当財団、日本原子力研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構が共同で開発している粒子・重イオン輸送計算コード PHITSの現状と展望について、その盛況振りを国際会議を通じて述べていただきました。このように当財団

の業務に関連の深い高度情報科学技術分野でのご研究、専門家のご協力を頂き、刊行の運びになりましたこと、厚く御礼申し上げます。

学術研究の分野では高度情報科学技術が研究・実験のありかたを大きく進展させて医療技術や核融合原型炉設計技術に大きく貢献しています。一方、一般の家庭に目を向けますと、最近では短距離無線通信技術の一つであるBluetoothが、数m程度の機器間接続に使われて、パソコンの周辺機器、携帯電話、デジタルオーディオプレーヤー、カーナビゲーション・システム等の使用方法を大きく進展させています。たとえば自動車メーカー各社が、自動車向けBluetoothハンズフリー通話装置の開発を行い、従来から自動車の情報端末として確立していたカーナビゲーション・システムに組み込まれることが多くなり、「Bluetooth対応純正カーナビ」が登場しています。このように高度情報科学技術が思いもよらぬところで家庭生活を大きく進展させていることに気づかされて驚きます。どんどん進展する高度情報科学技術とそれを利用して便利で豊かな時代の到来を期待したいと思います。(中村)